

## 町長コラム オール佐久穂のまちづくり

### 町立千曲病院50周年によせて

町立千曲病院は、昭和45年4月に開設し、今年4月に創立50周年を迎えました。本来ですと、この11月15日に50周年式典を行う予定でしたが、新型コロナウイルス禍で中止となりました。

平成22年に40周年式典を挙げて以降、様々な出来事がありました。この10年間を象徴する言葉は、やはり「災害」であったと思います。平成23年3月の「東日本大震災」は、多くの尊い命が奪われ、地域医療のあり方にも大きな影響を与えました。

その後各地で大災害が頻発する中、当町においては、昨年10月の台風19号によって、100年に1回と思える大きな災害を経験しました。当院も医療的ケアの必要な被災者を受け入れ、また、避難所の巡回診療も行いました。

さらに、現在はコロナ禍にあり、地球規模の災害の中にあります。当院でも、感染者の受け入れ病床を確保すると共に、唾液による抗原検査の実施体制を整え、無症状の方の検査を行っています。

思い起こすと、私が職員として当院と関わりを持ったのは、平成15年の町村合併協議のときとなります。医療福祉施設の在り方に関わる事務の擦り合わせが、その最初でした。その協議の中で、人口減少、慢性的な医師不足、社会制度の改革等の時代の流れの中で、幾多の難局を歴代の職員、あるいは町民が一致協力することで乗り越えて、今があることを知りました。そして、当時の小

林正明院長が言っておられた「公立病院だからできることがある。」との言葉が、今も私の胸中にあります。新町佐久穂町が誕生して15年が経過し、気が付いてみると、私にとって千曲病院は無くしてはならない大切な存在となっていました。

今後も、多発する自然災害あるいは未知の感染症への対応は、困難と混迷を繰り返すように思われます。当院の状況は、コロナの大きな影響もあり、今までよりさらに厳しいものとなっています。

一方で、安心・安全な生活を支えるために、住民に一番近い医療機関の役割は重くなっています。佐久管内にある医療福祉施設の皆様と地域医療等のネットワークを構築し、どのような形で「公立の病院としての使命と役割を果たしていくか」しっかりと検討していかねばならないと考えております。

皆様のより一層のご支援、ご鞭撻をお願い申し上げます。

(令和2年11月3日筆)



町立千曲病院外観

